

新技術名：カメムシ類の加害に対するリンゴ果実の被害程度（平成8年～13年）

研究機関名 果樹試験場 環境部 虫害担当
担当者 舟山 健

[要約]

カメムシ類の加害に対するリンゴ果実の被害程度は季節的に変化した。果実の肥大期における加害で被害程度が著しく、この時期に最もカメムシの加害に対する警戒が必要である。

[ねらい]

近年、リンゴにおいてカメムシ類の加害による果実被害が増加している。その被害様相は、加害を受けた時のリンゴの生育ステージによって異なることが経験的に知られている。この被害程度の季節的变化を明らかにすることは、リンゴにおけるカメムシ類の重点防除期を把握する上で極めて重要である。

そこで、リンゴ果実に放飼したクサギカメムシ成虫による加害時期と被害程度の関係を調査した。

[技術の内容・特徴]

1. クサギカメムシの加害による果実の被害度は、早生種の‘さんさ’が晩生種の‘ふじ’よりも早い時期にピークが認められた（図1）。このように熟期の異なる品種間では被害程度も季節的に変化すると考えられ、カメムシによる各品種のリンゴ果実の被害様相から、およそその加害時期が推定できる。
2. 各品種とも被害度の高かった果実は肥大期における被害であり、果実表面が緑色を帯びて大きく窪み、内部の果肉も広い範囲で褐変していた（図2、図3）。

[普及対象範囲]

県内リンゴ栽培地域

[普及・参考上の留意事項]

1. リンゴの生育は気象条件や栽培条件などに影響されることから、年次や地域によって被害度のピークが異なることに注意が必要である。
2. カメムシ類の加害による被害度が低い時期でも被害痕は必ず残るので、多発時には防除が必要である。

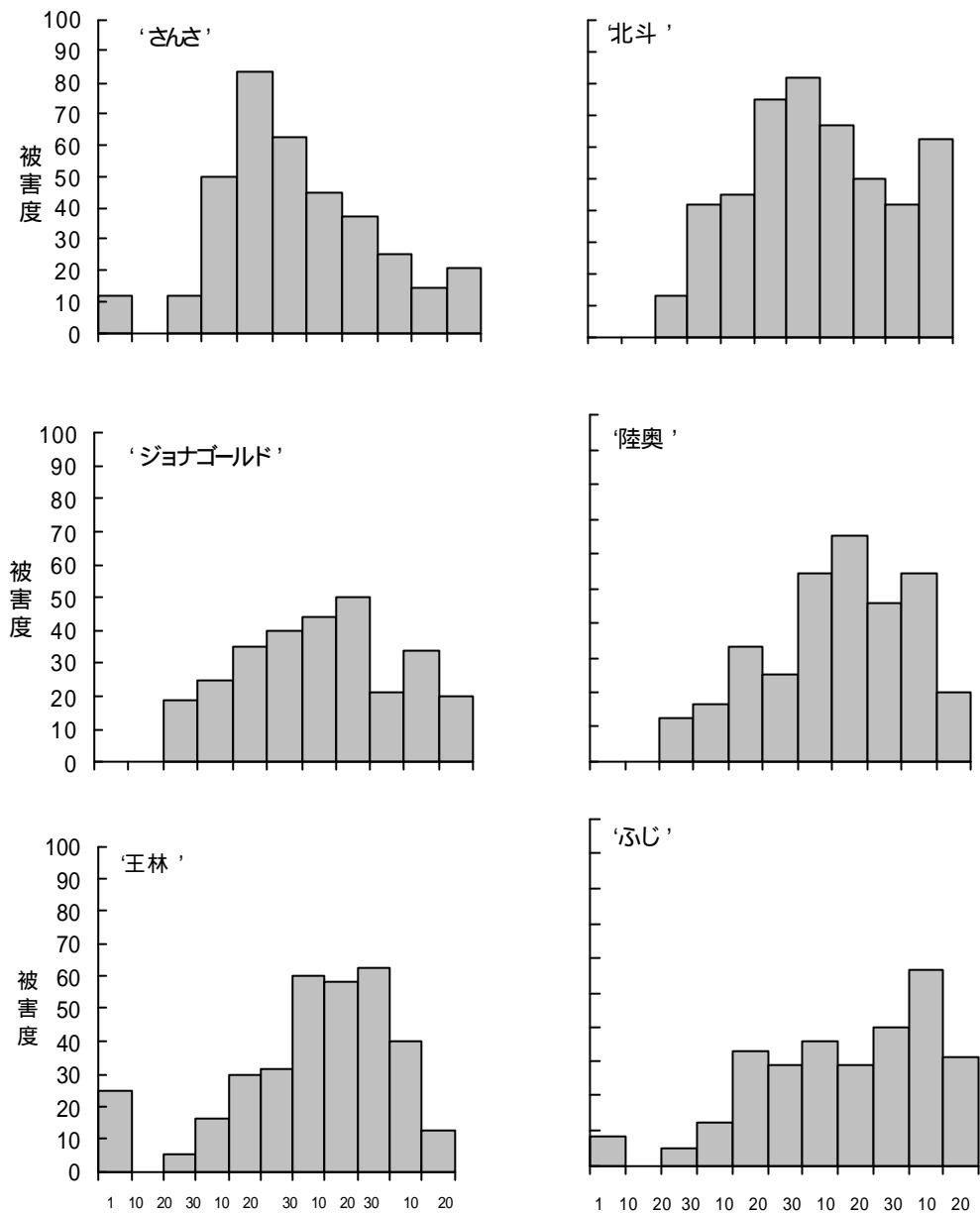


図 - 1

¹⁾ 被害度 = { の果実数 + の果実数 + の果実数 + の果実数 } / (調査果実数 × 4) × 100
 分類の基準 : 窪んでいない, : 微小な窪み (幅 1~2 mm程度), : 小さな窪み (幅 2~5 mm 程度), : 比較的大きな窪み (幅 5~10 mm程度), : 著しく大きな窪み (幅 10 mm以上)



図 2 肥大期のカメムシ類の加害による果実表面の被害様相



図 3 肥大期のカメムシ類による果実の被害跡断面の様相